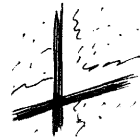


発表会を中心にしたあそび



鈴木正子

年少組園児 男二〇名
女二〇名

一、主題設定の理由

今年も十二月の発表会を中心にしたあそびを計画してみようとおもう。あたたかくした室の中で、今までして来た劇あそびや歌や楽隊などを、まとめながら遊ぶのも冬のあそびにふさわしく、発表力や表現力をのばすのにもよい機会だとおもう。

一、ねらい

- 。よろこんで劇あそびや楽隊あそびなどをする。
- 。すきな絵をのびのびと画く。
- 。劇あそびでは自分のなりたいものになって自由に表現してあそぶ。

。みんなと一しょのあつまりを楽しむ。
。お友だちのする時には静かにみる。

二、計画と実践の記録

十一月二十二日（金）発表会の企画などについて教師同志で話し合う。今年度はクラス単位ですること、父母の発表も入れることなどを決める。また今年もサンタクロースのおじいさんを父親のだれかにしていただくことにする。宗教的なものにはふれず、童話の中のサンタクロースとして、よい子へのお土産を持って登場ねがうことにする。

クラス別の計画をたてる。

十一月二十六日（火）七月に経験した劇麦わら帽子（お茶の水幼稚園編幼児の劇あそび集）からおもいだしながらやってみる。動作化あそびの程度だったが良くおぼえていて大よろこび、すきな役になって遊ぶ。陸上のところは四才児には複雑になって無理なので最初からはぶく。せりふは原作フランス幼児の創作で教師がまとめ役になって筋を運ぶ。

午後一時から学級集会。話題の一部に「発表会」を組み入れ「発表会」のねらい、みかたなどについて父母の方たちに、あらかじめ理解していただく。父母の発表については、快よく賛同を得て早速グループ別の相談をする。だいたい三グループに別れる。忙しい時期でもあるし、無理のない簡単なものをという

幼稚園側の希望をよく説明する。希望のグループには四才児向きの紙芝居、人形劇脚本などを貸出す。四時頃散会。

十一月二十八日(木) 六月に経験した劇大きな大根(新保育研究会編音楽劇あそびから)を思い出しながらやってみる。リズムカルな繰り返しの多い簡単なもので何時してもよろこぶ。

十一月二十九日(金) 「もうすぐ十二月」の話し合いから導入して、発表会に話題を発展させる。みんな発表会をやることに賛成。したいものは「劇」「楽隊」「歌」「展覧会」などの希望が出る。劇はすぐに決まって「妻わら帽子」と「大きな大根」のふたつをしようということになる。十月にした「お月様と一しよに」は希望が少なかったのでやめた。

なりた役について話し合う。展覧会については大きな紙に絵を画こうということになる。

十一月三十日(土) 劇あそびの配役をきめる。両方共やりたい人どちらでも良い人、どうしても妻わら帽子がしたい人、どうしても大きな大根のやりたい人などで調整がむずかしくなかったが、ちょうど二十人ずつのグループ編成ができあがる。

登場人物と人数にはだいぶ変更が出る。

妻わら帽子(いわし五人、いか三人、たこ四人、かつお三人、たい五人で、いわしは男児三人、女児二人、いかとたいは女児、かつおとたこは男児ばかりだった)

大きな大根(おじいさん二人、おばあさん二人、蛙四人は男

女児二人ずつ、うさぎ六人女児、熊三人、そう三人何れも男児だった)

うた「サンタのくに」を取り上げて指導する、発表会に来るサンタのおじいさんへの期待でいっぱいのところなので、よろこんで歌う。

十二月二日(月) グループ別に劇あそびをする。役がきまっていたので興味も増したのしむ。話の順なども大分よくのみこめてきて声も大きくなった。うたは、サンタのくにを続けて指導する。姿勢を正しくきれいな声で歌うように気をつける。

十二月三日(火) 興味ののったところで教師の作った冠を与える。冠をかぶるのは、はじめての経験なのでたいへんよろこぶ。全員で集って遊ぶ。

十二月四日(水) うた、サンタのくにに加えて大きな紙に指導する。強弱に気をつけてうたう。

火事のひなん練習、体重測定などで一日を終る。

十二月五日(木) 冠をつくる。動物や魚などの表現がむずかしく、教師の与えたものを真似しようとする幼児が多かった。絵が小さくなりすぎたり大分難航したようだったが、とにかく作りあげて満足したようである。それをかぶってまた全員で遊ぶ。せりふも大体まとまり安定したものになって来た。お互いの劇を見ながら動作について工夫をする。お互いに見ている人が歌を歌うことを約束する。まだお友だちにたよって声を出さ

ない幼児がいるので、そういう子どもについて特に気をつけて指導する。

十二月七日（土）十月に経験しているおまつりを取りあげ合奏をする。最初の指導は大きな楽器を使って自由に合奏することから入り、だんだんに編曲したものを与えるようになった。前にしたことのある曲なのですぐできた。

十二月九日（日）劇あそび、全体で集ってみんなで見たたりしたりする。前回の指導に加えてお友だちのするのを見る時は静かにみるようにする。

楽隊あそび―おまつりに加え六月に経験している時計屋の時計を合奏、楽器を大切に扱う約束をする。楽隊の役割を身長の順に決める。全員四十名。たいこ、指揮2、ハンドカスター17、鈴8、タンバリン6、トライアングル6。

合奏は経験してあるおまつり、時計屋の時計をすることに決める。うたは子どもたちのすきなうたから、ロケット、大きなたいこ、最近習ったものの中からサンタのくにをえらんだ。十二月十日（火）大きな絵をかく。この頃になると少々劇あそびも飽和状態になるので、興味を展覧会の方へ誘導する。

包装紙の裏にえのぐで力いっぱいに画くように指導する。幼児自身に紙の大きさをえらばせる。約十三名が参加。

楽隊の練習をする。指揮にしたがって合奏をする。
うた―サンタのくに、ロケット、ジングルベルなどを歌う。

十二月十一日（水）大きな絵のつづきをかく。朝からまだ画かなかった幼児たちが積極的に入って来る。殆どの幼児が画きあげ、二枚目をかく子どもも出てくる。K君だけが誘っても画こうとしない。掲示板に貼ってお友だちの絵をみんなでみる。うた―大きなたいこ、ロケット、サンタのくにを並んで歌う。

十二月十二日（木）ゆうぎ室で発表会のようにして、したり見たりする。いよいよあと五つ寝ると発表会。発表会の順序などについて具体的に話す。サンタのおじいさんや、おかあさん方の発表の話を聞いて眼をかがやかせる。十一時頃から、年長組の幼児もまじえて、クリスマスツリーを飾るのを見る。美しい装飾にまた眼をみはる。発表会の案内状を家庭へ持って帰る。十二月十三日（金）劇の小道具、大きな大根の葉を作る。つだいをする。今回は希望者だけで十名参加した。だんだんにこういう経験をどの子どもにもさせていきたい。

たいこを受け持った日君がカスターネットの方が良いと言います。原因は「たいこは一人きりでいや、それに良かったたけないうもの」と言う。なんとかして続けさせたいと思ったが、どうしてもいやだと言うのでM子と交替する。

食後話もみの木（日本幼稚園協会編幼稚園お話集から）のお話をする。クリスマスが終って、薪にされ燃やしてしまうもみの木のお話は、幼児の心を同情でかきたてたようだった。「もみの木はかわいいそうね」という感想がたくさんあった。

劇「大きな大根」



幼稚園のもみの木は根があつて発表会が終わるとまた土に植えるのだと話すときも安心しようだった。「あたし 今度根のついたツリーを買ってもらおう、そして天まで大きくしてやろう」「あたしも」「あたしも」「ぼくも」これが今日のお話を聞いての幼児たちの結論になった。

十二月十四日（土）葉っぱを作り替えて新しくなった大根をみて大よろこび、また劇あそびが活発になる。今日はグループ別に遊ぶ。

「先生、家で画いて来たよ」とK君が絵をもって来る。「画くこ

とがわからなかったから画かなかった」とのこと。母親から連絡がある。開くとクリスマス絵が一応のまとまりをみせてかかれていた。何かをみて画いたのか、教わったのか、何時も慎重すぎて、ややおとなびた、からに閉じこもったようなK君の性格が気になる。でもせっかく画いて来たK君のところがいいらしく「よくできたのね」と飾ってあげる。

十二月十六日（月）年長組のクラス発表会のじゃまをしないように遊ぶ。欠席して出て来たY子も一生懸命に絵をかく。

明日の発表会への期待で朝からはしゃいでいる。サンタクロースが本当に来るか来ないかで議論しているグループもある。

サンタクロースの存在については、大部分の幼児が信じているようである。明日のことについて話を聞いたり約束をしたりする。子どもたちの希望からもう一度練習をする。

十二月十七日（火）クラス発表会。九時三十分から十一時三十分まで。

プログラム

一、開会のあいさつ 一、発表内容についての説明

一、発表 一部 幼児

1 がくたい とけいやのとけい。おまつり 全員

2 げき 大きな大根

3 げき 麦わら帽子

4 うた 大きなたいこ、ロケットサンタのくに 全員

5 自由画(保育室に展示)

二部 父母

1 紙芝居 迷子のポスト

2 バントマイム あかいポケット

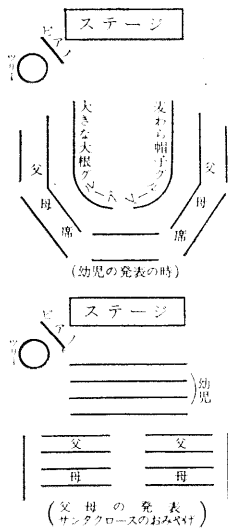
3 手品

4 劇 楽しい幼稚園

5 人形劇 三匹の仔豚

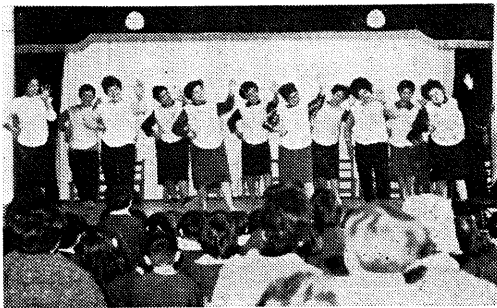
一、サンタクロースのおみやげ 二、閉会あいさつ

会場は次のように作った。



劇のグループ別、出場する順に並んで着席、劇はゆうぎ室の中央で、他は全部ステージを使用する。会場の設営、進行、サンタクロースのおみやげ、舞台装置、音楽などについては役員のお母さんにつだっていた。天候にも恵まれ欠席児も無く全員の部で一生懸命する。父母の部とサンタクロースのおみやげの部の幼児のよろこび方は、またたいへんなものであった。本当に楽しい日を過ごすことができた。終了後みんなで画いた絵

おかあさんの劇「たのしい幼稚園」



をみたあと、継続観察用の校草の鉢をかかえて降園。十二月十八日(水) 昨日の発表会のことを話し合う。とても楽しかったらしく、自分たちの発表のこと、おかあさんたちの発表のこと、サンタクロースのことなどつきない。

ただ残念だったことはサンタクロースの正体がわかってしまったこと。「パパがね、ママにね、

今日のサンタクロース良くてたかいかいて聞いたのよ、だからわかっちゃたの」とM子のいたずらっぽい顔。「そうかしら? でも貴女のパパ、ちゃんといたけどおかしいわね」と私。あんなに集会の時から内緒にすることを約束してあったのに、ほんとうに心ないパパである。

発表会の絵を画く。サンタクロースのおみやげ、人形劇、おかあさんの劇(たのしい幼稚園)を画いた子どもが多かった。十二月十九日(木) 今年が始めての試みとして父母の発表を入れたので、それについての感想を父母から集めてみる。本当の

声が届かかったので記名随意ということにした。発表会を心からたのしんだと言う意見が多く、また来年もと今から張り切っている声もあった。幼児のためにも、また父母同志の親睦の上にも良い計画だったようで安心した。

三、反省

1 発表会の日までの約三週間をたのしく盛りあげていくのに多少最初の計画を変更したりして経験内容の与え方に工夫を要したが大体良かったようにおもう。

2 発表の内容が以前経験したものであったので無理が無かったしんでやれてよかった。

3 劇はことばが少なく、リズムカルで繰り返しが多いものをえらんだので指導しやすかった。

4 発表会の話し合い以前の劇あそび（十一月二十六日と二十八日）を話し合い以後にもってきた方が指導が自然であったような気がする。

5 今までに冠をつけた経験が無かったために、最初は教師のつくった冠を与えた。この次の劇あそびの時は、はじめからすきに作らせてみたい。また今回は幼児の希望が強かった為に教師の作ったもので発表会をしたが、来年は自作のものでやらせたい。

6 楽隊の役割を機械的に身長順にしてみたが途中で変更が出

たりして考えさせられた。一学期に十分にたいこをたたくことを経験させたつもりだったが、やはり、幼児の自発性をもとにして考えるべきだったようである。

7 今年はクラス単位でしたため会場が広く使えてよかった。

8 劇をステージでしないで中央でしたことは、大勢の人の前で発表することにまだ抵抗のある四才児にとって、プラスであった。また配役の人数も制限しないで幼児の希望をいかすことができてよかった。

9 父母に対してあらかじめ発表会のねらいや見方について理解を求めてあったので、発表会を本質的なものにするのに役立った。

10 今年のはじめての試みとして父母の発表会を計画してみたが、ふだんは忙しい父母たちが発表会を機会に子どもたちと一しょにあそぶことができてほんとうによかったとおもう。発表の内容も簡素で幼児向きのものが多くてよかった。寸暇をさいでの練習ぶりは学生時代にもどったようなにぎやかさでほんとうにはほえましい情景だった。また都合で練習に出られない人の為にすぐ歌える歌を用意したり、役を軽くしたり助け合いながら練習している姿は心温まるものがあった。こんな良い試みが長くつづくように「簡単であり練習を要しないような発表をされるように」という幼稚園側のよびかけを今後もつづけていきたいと思う。（群馬大学附属幼稚園）